

# 優秀賞



高橋 (秀通)



石原

設計担当者

高橋秀通

東京建築士会、(株)日建設計

石原政幸

東京建築士会、清水建設(株)



大庭



高橋 (恵多)

共同設計者

大庭拓也

東京建築士会、(株)日建設計

高橋恵多

東京建築士会、(株)日建設計

長嶺 博

千葉県建築士会、清水建設(株)

石川慎一郎

東京建築士会、清水建設(株)



長嶺



石川

展示場、スポーツ練習場／東京都江東区有明

## 有明体操競技場

構造 | 重量鉄骨造、  
木造(屋根部分)

階数 | 地上3階

敷地面積 | 96,433.50㎡

建築面積 | 21,261.30㎡

延べ面積 | 39,128.26㎡

竣工 | 令和元年10月25日



1

1 競技場全景。湾岸地域に浮かぶ木の器

2 大梁および観客席により木で囲われた競技エリア

3 国産間伐材による木外装と廃材を利用した木チップ

舗装による屋外コンコースから木外装を見上げる

4 複合式木質張弦梁

写真1~3…エッセ

写真4…鈴木研一

## 選評

東京オリンピック・パラリンピックの競技用施設として建てられたもの。大屋根を支えるカラマツの大断面集成材、スギ集成材による観客席ベンチ、スギ間伐材による外装をはじめ木材を多用した施設で、木材には各地から集められた国産材が利用されている。木材を多用した大規模施設のため、排煙や給気の取り方をはじめ防災面での工夫がなされ、国土交通大臣認定を受けて実現している。カラマツの大断面集成材は、張弦梁の自碇式構造で、防災面で必要な性能を満たしているだけでなく、大空間の室内意匠を整えるとともに、特殊な行事にあわせた限られた工期のなかで工期を短縮することにも貢献している。

盛り土したレベルから建物へのアプローチをとることによって、高さを抑えて、水平線を強調するデザインとなっており、高層建物が並ぶ周辺の状

況と対比的な形である。また、周辺の高層建物がRC等による不燃構造で重厚であるのに対し、木質構造による軽快な姿も対比的な形である。対比的なデザインの面白さと同時に、地域性が感じられにくい大都市の海浜部における公共施設のデザインのあり方を示すものとして評価したい建物である。なお、観客席の下部を外部にすることで、軒線を強調するだけでなく、大きな軒の出がある形にしており、木材を利用した施設にふさわしい軽快なデザインとなっている点も好感が持てる。

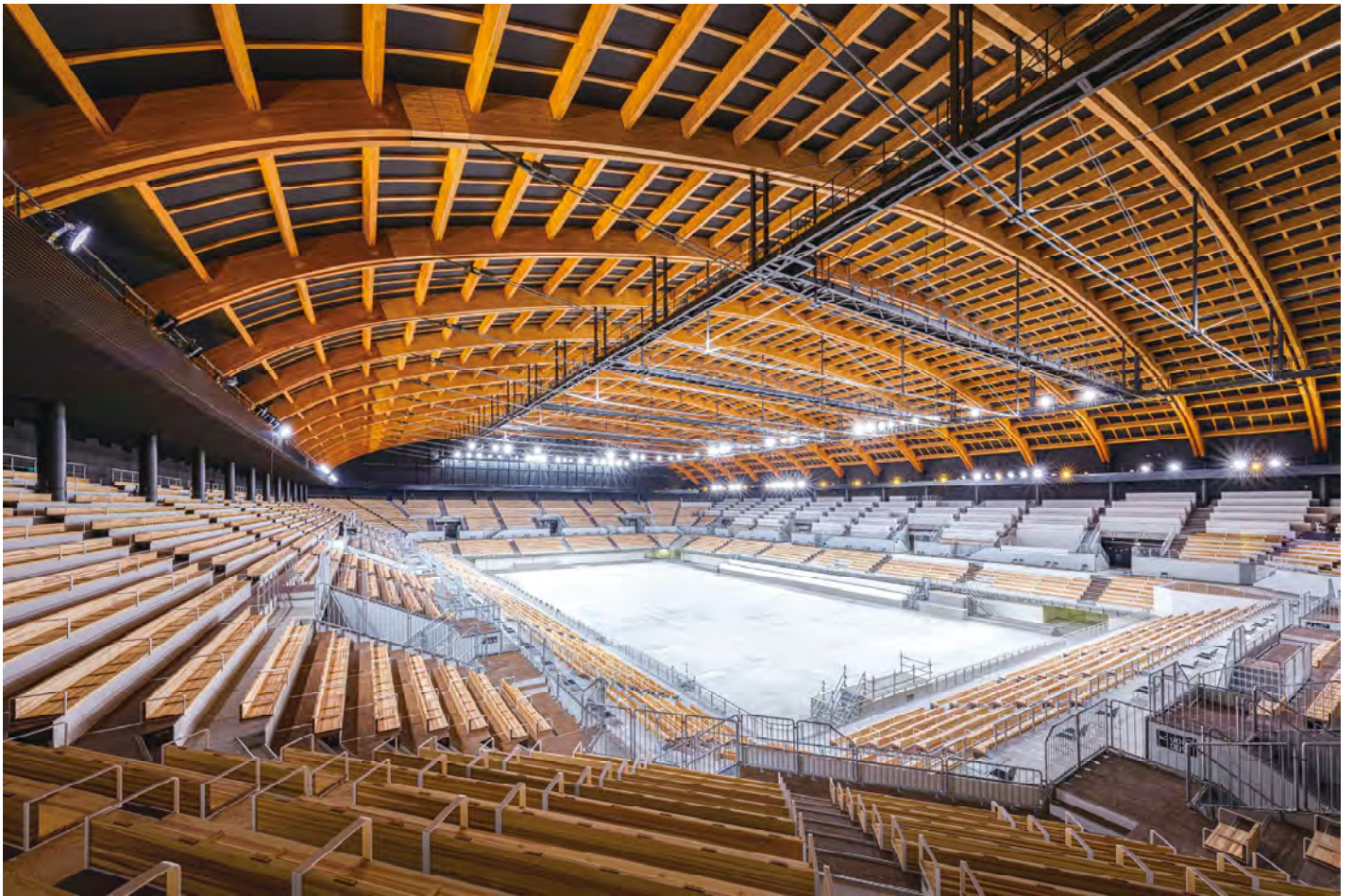
公共施設への木材利用の促進を図る法律の施行後、木材を利用した公共施設は、近年多数つくられるようになったが、なかには木の利用の効果に疑問の残るものも見受けられることがある。そうしたなか、本建物は、構造、デザイン、国産材利用等の各面において、木材利用として適

格、かつ理想的、効果的な成果を生み出していると考えられることから、優秀賞として評価したものである。

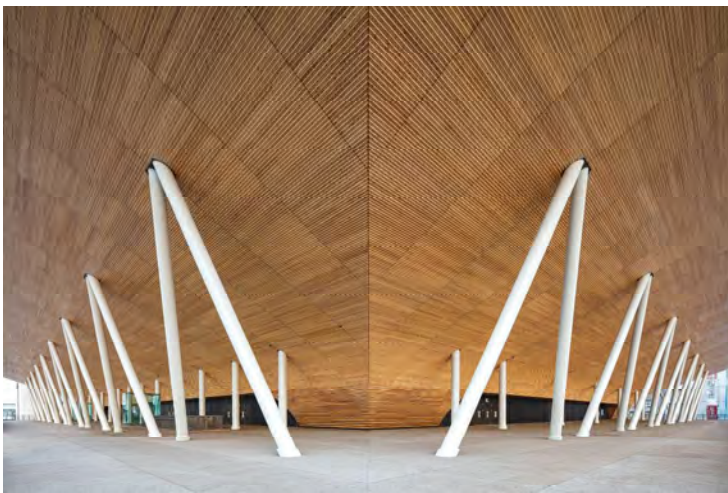
なお、東京オリンピック・パラリンピックの終了後は、客席部分を撤去して展示場として利用することが計画されているとのことである。そのため、前記した防災面での工夫は、展示場としての総可燃物量に耐えられるよう設計されている。客席部分の撤去は、特殊行事への対応ということで、やむを得ないことは思うが、その解体や解体後の輸送にかかるエネルギー、間伐材といえども森林で育てるにはそれなりの期間がかかっていること等を考えると、本建物の評価とは無関係ではあるが、環境への配慮という点で、撤去後の有効利用を関係者に望みたいところである。

(後藤 治)

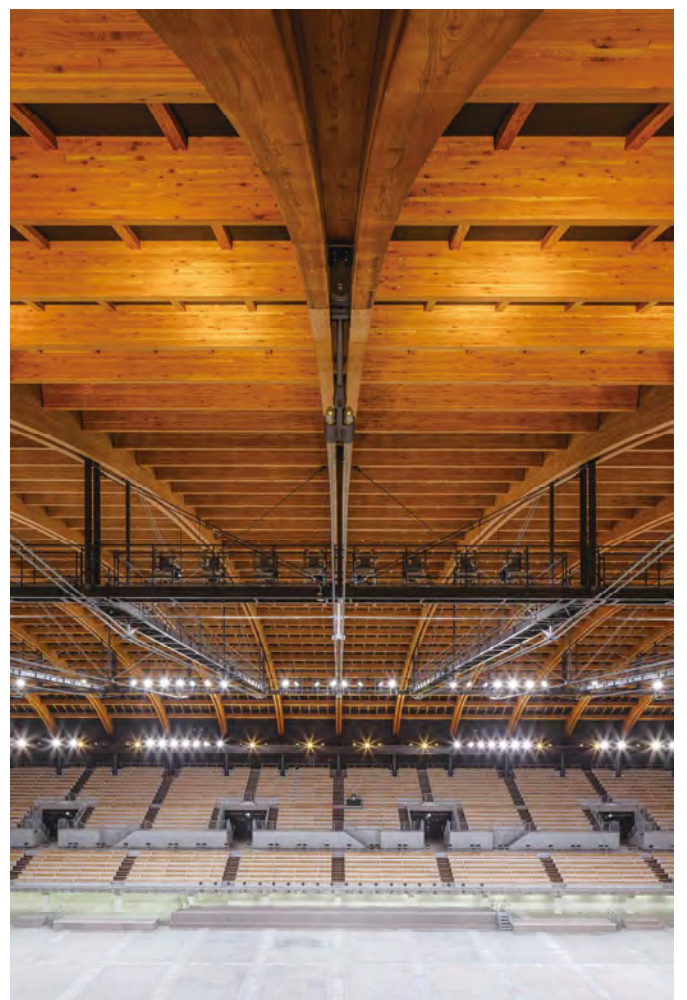
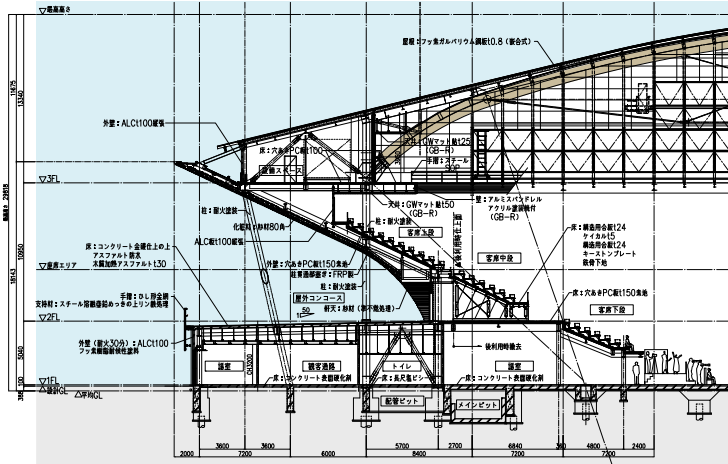




2



3



4